Integration Newsは、生化学・免疫検査の現状をお伝えし、これからの新しい臨床検査を推進するための情報源となることを目的しています。
今期のテーマをご紹介いただく東京大学医学部附属病院、岐阜県立医科大学、京都大学医学部附属病院、全国の大学医学部附属病院、新設診療所、地域医療支援病院です。
検査成績の検査の組織における医療情報の共有を目指し、質の高い医療・臨床支援・患者管理への貢献をめざし、検査機器の再構築を実施されましたのでご紹介いたします。
効率的な検査体制の構築と臨床支援

旭川赤十字病院 検査部 技師長 郡部 寛之

はじめに

旭川赤十字病院は赤十字の基本理念に基づき、個人の尊厳と権利を尊重し、病者の安心と癒しを目指しています。その一例として、救急救急センターがあります。昭和5年から救急救急センターを設けた旭川市とその周辺区域の救急医療を担っています。また、平成16年には地域医療支援部の承認を得て地域医療機関の体制を整えています。

検査部としてもこの病院の特徴を反映できる検査部運営を目的に日々努力をしています。今後、化学・免疫検査の更新を機に再構し、病院内における検査室の位置付け、質の高い医療、臨床支援、患者様への配慮を念頭に置き検査部の再構築を実施しなければと感じています。

病院概要

病床数は一般病棟56床、精神科病棟48床、重症看護棟に設けられた救急医療・高度医療を担う急診科病棟として機能した。また、災害医療施設の災害医療の充実と実用時の中止支援者訓練に対応するための対応強化に努めています。

①昭和4年日本赤十字社北海道支部設立として札幌に設置
②昭和15年日本赤十字社北海道支部設立として札幌に移転
③昭和51年救急救急センター設置
④平成12年11月（新）日本赤十字社北海道支部医療機関による
⑤平成16年5月北海道連携気象予報機構の認定取得
⑥平成17年3月電子カルテ導入
⑦平成18年5月（新）日本赤十字社北海道支部医療機関の認定取得
⑧平成18年6月ICU導入

自動分析装置の更新状況

自動分析装置の更新状況

検査の再構築までの取り組み

目標設定

検査の再構築にあたっての基本目標

①適格な人材を効率的な運用を可能に
②合理的かつ適切な配置により効率化を目指す
③臨床医の支援（診療時間の確保）と院内管理の充実

検査の再構築までの取り組み

検査の再構築にあたっての基本目標

3つの目的を掲げた理由として、1つ目は検査部の再構築を進めるべきとして、2つ目は検査部の再構築を進めるべきとして、3つ目は検査部の再構築を進めるべきとして、4つ目は検査部の再構築を進めるべきとして、5つ目は検査部の再構築を進めるべきとして、6つ目は検査部の再構築を進めるべきとして、7つ目は検査部の再構築を進めるべきとして、8つ目は検査部の再構築を進めばのための目標を設定します。
生化学・免疫連携機導入後の改善された点

・報告時間の短縮
  ① 就診後0.5分で生検により検査が完了し、 Olympus Nexus 4で画像化が可能であったため、迅速な診断が可能となった。
  ② 画像診断における迅速発注のため、迅速な検査が可能となった。
  ③ 組織標本の迅速診断のため、迅速な診断が可能となった。

・情報管理の強化
  ① データベースの整備により、迅速な検査が可能となった。
  ② 画像診断における迅速発注のため、迅速な検査が可能となった。
  ③ 組織標本の迅速診断のため、迅速な診断が可能となった。

・検査結果の迅速発注
  ① 就診後0.5分で生検により検査が完了し、 Olympus Nexus 4で画像化が可能であったため、迅速な診断が可能となった。
  ② 画像診断における迅速発注のため、迅速な検査が可能となった。
  ③ 組織標本の迅速診断のため、迅速な診断が可能となった。
効率的な検査体制の構築と臨床支援

検査部で実施している臨床支援

今から連携担当者に伴う検査部外管理の改善が次第に進捗を示しており、検査部全体を強化するための取り組みが活発に進められています。特に、検査部においては、検査部の各課の連携が重要であるため、各課の連携強化を図ることが重要です。例えば、検査部の各課が連携を図ることで、検査部全体の効率化が図られ、患者の負担軽減が期待できます。また、検査部における情報共有の強化も重要であるため、検査部全体で情報共有を図ることが重要です。特に、検査部においては、検査部の各課が連携を図ることで、検査部全体の効率化が図られ、患者の負担軽減が期待できます。